



紙リサイクル コンテスト2020

全国小中学生

入賞者一覧・受賞作品 作品集

主催

公益財団法人古紙再生促進センター

後援

文部科学省

全国連合小学校長会、全日本中学校長会、

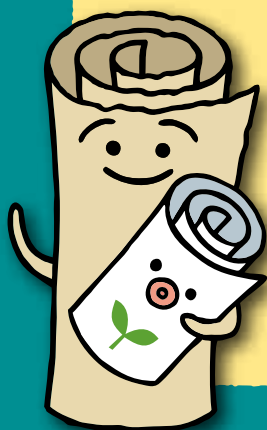
全国市町村教育委員会連合会、

全国小中学校環境教育研究会、

読売新聞社、全国製紙原料商工組合連合会、

日本再生資源事業協同組合連合会、

段ボールリサイクル協議会、日本製紙連合会



2020 年度 入賞者一覧



文部科学大臣賞

作文部門

東京都 東京創価小学校 4 年

美越 凜子

古紙は宝物

ポスター部門

長崎県 佐世保市立日宇中学校 1 年

狩集 百葉

変～身！！



金賞

作文
小学生部門

東京都 東京創価小学校 4 年

阿部田 優子

うちには大切な資源がいっぱい

作文
中学生部門

宮城県 気仙沼市立松岩中学校 3 年

佐藤 優香

広げよう「リサイクルの輪」

ポスター
小学生部門

東京都 杉並区立浜田山小学校 4 年

石川 連也

**もう一度 かがやける
リサイクルステージへ**

ポスター
中学生部門

東京都 十文字中学校 1 年

木村 柚香

古紙から美しい未来へ



特別金賞

全国製紙原料商工組合
連合会 理事長賞

福岡県 明治学園小学校 1 年

能美 にな

かみリサイクル二つのもんだい（作文）

日本再生資源事業協同
組合連合会 会長賞

福岡県 北九州市立篠崎中学校 3 年

田島 純怜

リサイクルの輪から地域の輪へ（作文）

段ボールリサイクル
協議会 会長賞

山口県 岩国市立周東中学校 1 年

村岡 愛梨

リサイクルできる「古紙」（ポスター）



銀賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	千葉県	富里市立富里南小学校	2	中田 葵	わが家の紙リサイクル
	中学生部門	宮城県	気仙沼市立松岩中学校	1	佐藤 里桜	家の中には宝がいっぱい
ポスター	小学生部門	愛知県	名古屋市立大清水小学校	4	加藤 航生	生命をつなぐリサイクル
	中学生部門	神奈川県	横浜市立港南台第一中学校	2	野澤 冬晴	江戸に見習う



佳作

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	千葉県	佐倉市立西志津小学校	1	斎藤 すばる	わたしの工夫したリサイクルばこ
		三重県	桑名市立多度東小学校	5	鈴木 真子	リサイクルを進めるために
		静岡県	磐田市立磐田西小学校	4	佐藤 迪洋	おかしな箱から考えた、紙リサイクル
	中学生部門	神奈川県	横浜市立あざみ野中学校	1	河井 咲良	紙生
		栃木県	栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校	2	久保 楓子	私達にできること
		広島県	広島三育学院中学校	3	徳江 陽介	日常
ポスター	小学生部門	大阪府	島本町立第二小学校	3	若山 怜穂	大切なしげん正しくえらんでリサイクル
		神奈川県	横浜市立瀬ヶ崎小学校	4	渡部 花菜	生まれかわる旅へ
		東京都	アトリエ IT	6	千賀 煌大	紙リサイクル しよう
	中学生部門	山口県	岩国市立周東中学校	1	山下 匠翔	古紙はごみ？ じゃなくて、貴重な資源だ！！
		宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	1	鮫島 まみ	資源には限りがあるからリサイクル
		鹿児島県	始良市立帖佐中学校	2	国師 菜月	リサイクルは続くよどこまでも



学校特別賞

小学校部門

東京都

荒川区立第三日暮里小学校

中学校部門

宮崎県

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校



学校奨励賞

小学校部門

東京都

荒川区立第三日暮里小学校

中学校部門

富山県

富山市立堀川中学校

目次

3-4P	文部科学大臣賞受賞作品
5-8P	金賞受賞作品
9-11P	特別金賞受賞作品
12-13P	銀賞受賞作品
14-19P	佳作受賞作品
20P	学校特別賞受賞校紹介
21P	学校奨励賞受賞校紹介
22P	古紙再生促進センター活動紹介



文部科学大臣賞 作文部門

東京創価小学校 4年

美越 凜子

古紙は宝物

私の家では、リサイクルを大切にしています。特に、紙リサイクルに力を入れています。

そのきっかけになった出来事がありました。

学校から帰ると、道路わきに、朝出しておいたビザの空き箱がそのまま置いてありました。「出しておいたのに、回収されなかったのかな。」と思い近づいてみると、一枚の紙が貼られていました。そこに書かれていたのは「汚れているので、回収できません。」というメッセージでした。

そこで、私はお母さんと一緒に「紙リサイクル」について調べました。市から配られる古紙の出し方の冊子を見て、汚れているものは紙リサイクルできないことがわかりました。読み進めていて驚いたことは、紙リサイクルできる古紙の種類がたくさんあったことでした。それまでは、段ボール、雑誌などが中心でした。でも、チラシ、封筒、おかし空き箱など細かい物も雑がみとして紙リサイクルできるのです。今まで紙リサイクルしなかった古紙がどれだけあったらうともしたいない気持ちになりました。宝物をむだにしていたのです。

いろいろな古紙がリサイクルできるということはわかったのですが「分別」をしないと意味がありません。

せん。それぞれ生まれ変わる紙製品の形が違ってするので、分別をしないと工場で働いている人たちに負担がかかってしまいます。そこで、資源として出す前に、家族一人一人が自分で分別できなくてはいけなと考えました。どうすれば分かなりやすく分別できるかなやんでいた時にヒントになったのがおばあちゃんの家です。おばあちゃん、段ボール、雑誌、雑がみ、新聞紙、牛乳パックの入る箱を分けてラベルをはっていました。誰が見てもどこに置けばよい一目でわかります。その工夫を取り入れて、パントリーにそれぞれの置き場を作りました。それからは、家族全員が小さな古紙でも分別できるようにしました。今では、回収日に古紙がなくなると、スッキリして嬉しい気持ちになります。

古紙の出し方を失敗して、紙リサイクルについて調べたことが、家族の古紙に対する気持ちを変えました。知らなければ行動にうつせなかったと思います。古紙という宝物をむだにせずに、新しく生まれ変わらせるのは、私たちにかかっています。私は、家で取り組んでいる古紙の分別の工夫をいろいろな人たちに伝えていきたいです。



文部科学大臣賞 ポスター部門

佐世保市立日宇中学校 1年

狩集 百葉

変～身！！



作文小学生部門

金賞

東京創価小学校 4年

阿部田 優子

うちには大切な資源がいっぱい

今年は新型コロナウイルスの流行で生活が大きく変わりました。わたしの家でも、わたしとお兄ちゃん、お姉ちゃんしばらく学校に行けなくなり、お父さんも、家の中で仕事することがふえました。

家族の生活が変化の中で、「紙のリサイクル」を考えなくてはいけない出来事が、大きく二つありました。それは、「たくはいびんがふえたこと」「コピー用紙をたくさん使うようになったこと」です。

まず、たくはいびんです。あまり買い物に出かけなくなり、文房具、洋服、家電、そして食料まで、いろんなものをインターネットで注文して届けてもらうことが、すごく多くなりました。それで、毎日のようにダンボール箱が届くようになりました。

ダンボール自体は、わたしはすごくべんりだと思っています。波のようにうねった再生紙が厚紙には生まれ、とても丈夫で軽くて、図工の工作にも使えます。わたしたち家族が住む市ではリサイクルに力を入れていて、ダンボールもちゃんと回収日が決められているので、わたしの家では大量に出してしまうダンボールが少しでも再生されるよう、なるべくきれいなままでたたんでほかんしました。

もう一つ、コピー用紙も、ダンボールと同じく、大切な資源であり、ボール紙やダンボールに生まれ

変わると学習しました。わたしの家では、お母さんに教わりながら、ダンボールと同じようにちゃんと整理して、決められた日に回収してもらっています。

それにしても、わたしの家だけでもこのような変化があったのに、これが市全体や、東京全体で見たら、いったいどれくらい紙の使用量がふえたのか、わたしは少し心配になりました。

リサイクルの量がふえすぎると、業者の人も大変ではないか、また、処理工場も止まってしまうのではないかと思ってしまうのです。それにかかわっている人たちにありがとうと言いたいです。

あとは、リサイクル自体が面どうになる人がふえないように、市や町会などで、住民によびかけていけばいいのではないのでしょうか。市からはお父さんやお母さんのスマホに、ぼうさいや事けん・事故のお知らせが届くようになっていますが、それと同じくらい大切なリサイクルについても、回収日や手順などをもっとこまめにお知らせしていく仕組みがあった方がいいと思います。

そして一番大切なのは、わたしたちがもっと勉強して、大人たちや社会によびかけられるように成長していくことだと思います。

金賞

気仙沼市立松岩中学校 3年

佐藤 優香

広げよう「リサイクルの輪」

私の家では環境問題に関心のある妹が中心となつて、「紙資源」のリサイクル活動を行っています。新聞紙やダンボール、雑誌、雑紙などを分けて保管し、ある程度の量になったら資源の収集所に持って行きます。私はリサイクルについてよくわからなかったのですが、妹と一緒に市の広報誌でリサイクルの仕組みについて調べ、関心を持つようになりました。捨てられたらごみになってしまう紙資源が、①捨てない、②分ける、③出す、④使う、を通して、貴重な資源となっていくことは素晴らしいことだと思います。この活動をもっと多くの人に知ってもらい、より多くの人に一緒に活動してもらいたいと考えた私は、父にお願いしてみました。「お父さんの職場でもやってみたらいいんじゃない?」と…。父は「いいよ」と即答してくれました。そして私と父は職場でのリサイクルの方法や声かけについて相談しました。

一週間後のことです。帰宅した父は荷物を降ろすこともせず、「優香、たった一週間でこんな大きな紙の束が四つもできたよ。」と、大きな手振りでリサイクルの成果を話してくれました。職場の多くの人が協力してくれ、なんと二五キロぐらいの紙を資源として回収できたそうです。また、すぐそばのゴミ箱に紙類を入れるのではなく、用意したリサイクルボックスに持ち寄ることで燃えるごみの量が減ったことも教えてくれました。父も私も本当にびっくりするのと同時に、とても嬉しくなりました。ゴミ箱に捨ててしまえば燃えるごみになってしまはずだったものが、多くの人の意識の変化と少しの手間をかけることで資源となる。そして、そのきっかけが私の一言だったなんて…。なんだか、とてもやる気が出て、もっとこの運動を広げたいと強く思いました。

今、私は自分の通う学校でもリサイクル活動ができないかを考えています。父や妹、姉、母とも相談し、どうすれば学校の先生や友人の協力ももらえるかを考えています。まずは、関心を持ってもらうこと。そして、一緒に活動してくれる人を少しずつ増やしていきたいと思っています。そして、皆でリサイクル活動に取り組み、「活動の輪」をどんどん広げていきたいと思っています。

ポスター小学生部門

金賞

杉並区立浜田山小学校 4年

石川 連也

もう一度 かがやける リサイクルステージへ



ポスター中学生部門

金賞

十文字中学校 1年

木村 柚香

古紙から美しい未来へ



特別
金賞

明治学園小学校 1年

能美 にな

かみリサイクル二つのもんだい

なつやすみに、リサイクルについてしらべました。リサイクルできるものは、ごみではなく、「しげん」とよびます。つかったあとのしげんは、かいしゅうされ、リサイクルされて、うまれかわるのです。しらべてみると、ふしぎなことがわかりました。しげんのなかで、かみのリサイクルされるわりあいだけがとてもひくかったのです。なぜ、このようなけっかになったのか、かんがえてみると、ふたつのことにきがきました。

ひとつめは、かみせんようのかいしゅうぶくろがないことです。ほかのしげんでは「かん・びん」「ペットボトル」とかいた、せんようのかいしゅうぶくろがあります。でも、わたしのまちでは、かみのしげんは、ひもでしばるか、かみぶくろにいれることになっています。おかあさんといっしょに、じっさいにまとめてみると、かみはおおきさがばらばらで、ふくろからとびだしてきたり、ふくろがやぶれてしまったりしました。それに、おおきなかみに、ひとりでひもをかけるのはとてもたいへんでした。ひとりぐらしのおとしよりや、このわるいひとはむずかしいのかもしれない。もし、きめられた、つよいかみぶくろがあれば、もっとかみリサイクルがしやすくなるのではないかなとおもいました。

ふたつめにちゅうもくしたのは、かみのしゆる

いです。かみのなかでも、ダンボールはほとんどがリサイクルされていることがわかりました。じつは、かみにはリサイクルできるものと、できないものがあるのです。たとえば、しんぶんしやざっし、「コピー」ようしはリサイクルできます。でも、レシートやティッシュ、かみコップなどはリサイクルできないかみなのです。これをただしくしていいないと、かみリサイクルはすみません。ダンボールは、だれがみてもわかりやすいので、かいしゅうりつがたかいのではないかなとおもいます。もっと、リサイクルできるかみのしゆるいを、きちんとみんながわかるしくみがひつようだなとおもいました。

かみリサイクルのためにわたしができることはなんでしょうか。まずは、まわりのひとに、リサイクルできるかみとできないかみがあることをしってもらうことです。がっこうのともだちや、しんせきにもおしえてあげようとおもいます。そして、たくさんべんきょうをして、かみリサイクルのためのかいしゅうぶくろをつくりたいです。もちろん、ふくろはやぶれにくくてつよいかみを、リサイクルされたかみをつかってつくれたら、さいこうだなとおもいます。かみリサイクルなかまをもっとふやして、じっげんできるように、がんばりたいとおもいます。

特別
金賞

北九州市立篠崎中学校 3年

田島 純怜

リサイクルの輪から地域の輪へ

私は、古紙回収に対する意識の低い人が多いと感じている。マンションのごみ集積場を見ると紙類のごみがたくさん捨てられている。きっと古紙回収に対する意識が低いのだろう。私はどうしたらみんなの意識を変えることができるのかを考えてみた。

私の住む北九州市では、スーパーの入口に古紙回収ステーションが設置されており、持ち込んだ古紙の重さに応じたポイントが付加されるようになっている。そして、そのポイントを使用してスーパーで買い物をするができるのだ。買い物のついでに古紙回収に出すことができ、ポイントが付くため、大人も子供も楽しんで回収することができると思う。こうすることで、家の紙類のゴミが減り市指定有料ごみ袋も節約することができ、家計も助かると思うが、残念ながらあまり利用されていないのが現状である。

自治体の古紙回収は曜日が指定されているため、回収頻度も少ない。スーパーの古紙回収ステーションはいつでも買い物のついでに持つてくることができるため、利用しやすいのではないかと

と思う。古紙回収ステーションが設置されているスーパーはまだ少ない。もっと数を増やし、そして、この古紙回収ステーションのことをもっとテレビやインターネット、タウン誌などで宣伝していくべきではないかと考える。

また、北九州市は地域の祭りが毎年多く開催されている。その祭りのイベントの一つとして古紙回収をすれば、多くの古紙が集まるのではないかなと思う。古紙と引き換えに地域の商店で使える商品券や割引券を渡すようにすれば商店で買い物をする人が増え、地域の活性化にもつながり、お互いにとってプラスになるのだ。古紙に付加価値を与えることにより、古紙リサイクルに対する意識の低さを改善することができると思う。

最近、自然災害がたくさん起こっている。災害時に必要なのは、地域の人と協力し合うことだと思う。普段から古紙回収イベントなどで地域の輪が広がっていれば、どんな辛い災害も乗り越えられる。私は今後、古紙リサイクルのイベントが増えることによりリサイクルの輪、地域の輪が広がることを期待している。

段ボールリサイクル協議会 会長賞

特別
金賞

岩国市立周東中学校 1年

村岡 愛梨

リサイクルできる「古紙」



わが家の紙リサイクル

わたしの家では、「分べつ」が合言葉になっています。分べつすることが、リサイクルの正しい一歩だからです。

学校で『日本の紙リサイクル』というアニメを見て、紙リサイクルについて学びました。ざつしは、マンガや絵本に生まれかわります。紙パックは、トイレットペーパーやティッシュペーパーになります。ダンボールは、また、ダンボールに、新聞紙もまた新聞紙になるそうです。一ばんびつくりしたのは「ざつ紙」というしゅるいの紙です。この「ざつ紙」はティッシュペーパーのはやチラシ、コピー用紙、ほうそう紙、おかしのはこ、トイレットペーパーのしんなどのことを言います。これらの紙は、わたしの家では今まで「ゴミ」としてすてていたものばかりです。この「ざつ紙」も、あつめればダンボールに生まれかわるそうです。学校で紙リサイクルについてべん強して、リサイクルのためには何をどうしたらいいのかがわかりました。

リサイクルについてべん強してから、わたしの家の生活はかわりました。さいしよに書いたように「分べつ」することをはじめたのです。まずやりはじめたのは「ざつ紙」です。今までは「ゴミ」としてすてていたものを、分べつしてとっておきます。ティッシュペーパーのはこは、紙ではないビニールのぶぶんをとってから、ひらいてたたみます。ほうそう紙は、テープをはがしてしわをのばしてたたみます。おかしのはこは、よごれていないかかくにんして、ひらいておきます。コピー用紙もすてないでとっておきます。トイレットペーパーのしんもとっておきます。今まで気づかなかったけれど、やりだしたら楽しくなってきました。学校でもやっているように牛にゆうをのんでおわたった紙パックもきれいにあらってかわかして、かわいたらパックをひらきます。わたしたちにも、できることがたくさんあります。

よごれたままだったり、めんどろだからとすててしまうと、「ゴミ」になってしまいます。リサイクルのスタートは、わたしの家のように「分べつ」です。わけることで、「ゴミ」だったものが、大切なしげんになります。これも、知らなければできませんでした。そう考えると、リサイクルのはじめの一步は、リサイクルについて知ることなのかもしれません。日本中の人が、紙リサイクルについて学んで、みんなが紙リサイクルができるようになればいいと思います。

家の中には宝がいっぱい

「えっ、お菓子の箱は資源なの？」

私がお菓子を食べ終え、空き箱を「ゴミ箱」に捨てた時です。父が「もったいない」といって、「ゴミ箱」から空き箱を取り出しました。驚いた私は「全部食べて、中身はないよ」と言ったところ、父は「箱のことだよ。資源としてリサイクルできるんだよ。気仙沼市でも集めているよ」と教えてくれました。その瞬間から私の家での「宝さがし」が始まったのです。

まず、私は住んでいる気仙沼市の資源回収のルールについて広報誌から調べてみました。その中では新聞・雑誌・段ボールなどの他に確かに空き箱などの雑がみが資源として回収されていることが書かれてありました。我が家では新聞・雑誌・段ボールを紙ひもでまとめ、収集所に出していることを知ってはいましたが、「雑がみ」については両親が集めていることを知りませんでした。私は正直、「雑がみ」をいちいち回収するのはめんどくさいなと思ってしまい、そのことを父に話してみました。父は「確かに手間はかかるけど市の収集所に出すと、資源として再利用されるんだよ。地球の中にあるものは限りがあるんだから、リサイクルしないとつたいないよ。だからパパにとっては紙箱などの様々な紙はリサイクルするためのお宝なんだよね」と話してくれました。私は「宝」という言葉にとても心がひかれました。ちょっとした手間をかけるだけで「雑がみ」が地球にとつての「宝」になる。そして、資源を大切に使うことは、私たちだけでなく未来の人々にとつてもうれしいことなんじゃないかと気付いたのです。

「雑がみ」を「宝」と思った瞬間から、私は身の回りの様々なものに気を配るようになりました。授業で使ったプリントやノート、学校からのおたよりも個人情報を取り取ればとても素敵な「宝」です。父と一緒に保管しておくものと資源にするものに分けるのが我が家の日課となりました。いろいろな会社から送られてくるダイレクトメールの紙類も資源としています。ただ、写真類やレシートはリサイクルできないので、家族で回収する時には互いに十分確認するようにしています。

今、我が家では「宝」である資源を回収するための袋が常に置かれています。それはしっかりと仕分けができるようになっており、家族のみんなが「宝」を入れるのが自然なこととして習慣化されています。ちょっとした手間をかけ、意識を変えることで自分にも家族にも、地球にも優しい「リサイクル」を続けられることをとてもうれしく、誇りに思っています。そして、100年後、1000年後の未来の人たちのためにも「宝」を回収し、リサイクル活動を当たり前のこととして続けていこうと思います。

ポスター
小学生部門
銀賞

名古屋市立大清水小学校 4年

加藤 航生

生命をつなぐリサイクル



ポスター
中学生部門
銀賞

横浜市立港南台第一中学校 2年

野澤 冬晴

江戸に見習う



わたしの工夫したリサイクルばこ

「おえかきをたのしんでいたとき、お母さんに「かみをもったいないよ。」といわれました。それは、わたしがちょっとまちがえただけであたらしいかみをつかっていたからです。わたしはなんでもつたいたいのかと、おもいました。」

かみはかけるものです。手がみをかけば、はなさなくてもつたえられます。えもかけます。べんきょうするのにもつかいます。ほかにもかみがあるから本がよめます。はなもかめるし、なみだもふけます。かみがなかったら、べんきょうができないのでこまります。なみだもふけなくてこまります。

そして、かみはなにかからできるのだらうときもんにおもいました。としかんでかりた本でしらべたら、かみは木のせいやぎゅうにゅうパックや、つかったかみからできることがわかりました。

つかったかみにもいろいろしゅるいがあります。しんぶんしはしんぶんしに、ダンボールはダンボール、ぎゅうにゅうパックはトイレットペーパーになることもわかりました。そして、よごれたかみやおいのついたかみはリサイクルできないことがわかりました。

つかったかみからかみができるなんて、わたしは、つかったかみはごみじゃなくて、ざいりょうなんだ。だからお母さんに「もったいない。」といわれたんだとおもいました。

そこで、わたしはかみを大せつにすることをかんがえました。リサイクルできるようにきれいにつかう。

むだにつかわない。

すこしまちがえただけですてない。

つかいおわったらすてないでリサイクルばこにいれる。

かぞくにもはなしをききました。

お父さんは、

「リサイクルで生まれかわるかみには、それぞれせいしつがあるから、リサイクルに出すときは、しゅるいごとにわけるといいよ。」とおしえてくれました。

お母さんは、

「これから、うらがみもつかえるようにぶんべつしようね。」といいました。

わたしは、ゴミばこのよこにリサイクルばこをおきました。でも、よごれたかみがいれてあったので、かぞくが正しくリサイクルできるように、はこに、リサイクルできないよごれたかみやおいがついたかみやレシートをいれないでねと、はりがみをしました。

がっこうでも、つかったおりがみやがようしは、いえにもちかえってリサイクルばこにいれようとおもいました。

リサイクルを進めるために

私は、昨年の夏休みに、紙リサイクル講座に参加しました。紙をリサイクルするのに大切なことは、「分ける」、「出す」、「使う」ということだと分かりました。

また、調べてみると、二〇一九年の古紙回収率は七十九・五％、古紙利用率は六十四・四％でした。どちらも最近十五年間ほとんど増えていないことが分かりました。そして、古紙の利用率は、回収率に比べて十五％も低いと思いました。そこで、どうしたらもっとリサイクルが進むのか考えてみました。

まず、もっと紙の分別をしやすくする方法です。一つ目は、分別の仕方をもっと知ってもらうことです。ごみの分別については、市役所から家に配布されていますが、紙の分別やリサイクルできるもの、できないものについては書かれていません。紙についても書き加えてもらったり、学校や会社などにも配ってほしいです。また、私が分別する時、もっと分けやすい物だということや、物があります。それは、ティッシュ箱とまどあきぶうとうつです。ティッシュ箱の取り出し口や、まどあきぶうとうつは、取りにくいので面どうだと思ってしまう。ティッシュ箱の取り出し口にビニールがない物や、まどあきぶうとうつのまどが紙になっている物もあるので、そういう商品を増やしていけばいいと思います。

次に、もっとリサイクルに出しやすくする方法です。一つ目は、出す場所を増やすことです。駅、コンビニ、本屋など、新聞や本を売っている所や、スーパーなど人がよく行き、集まる所に回収箱を置くことです。二つ目は、お年寄りなど回収場所に持って行けない人の家まで集めに行つてあげることです。例えば私の学校では、年に二回は品回収をします。地域の家を一軒ずつ回ると、大抵は前の道に出してくれてありますが、家や倉庫の中まで来てほしい、という人もあります。

最後に、もっとたくさん古紙を使う方法です。一つ目は、シャンプーやせんざいのつめかえぶくろに書いてあるように、古紙で作った商品に、「古紙を使ってリサイクルを進めましょう。」などのメッセージを書くことです。二つ目は、古紙を使用した商品を増やすことです。例えば、海のプラスチックごみが問題となっており、今年の七月から、プラスチックのレジぶくろが有料化になりました。どうしてもぶくろが必要な時は、紙のぶくろを利用したらいいと思います。また、野菜を包むのは、ビニールよりも紙の方が長持ちする場合もあるので、紙で包める物は紙を利用したらいいと思います。そして、ビニールよりも便利な紙を作ってほしいです。

ここまで考えてみて私ができることは、正しく分別してリサイクルに出すこと、そして古紙を使用した商品をできるだけ使つことだと思いました。私達、企業などそれぞれができることをしたら、もっとリサイクルがしやすくなり、古紙を使うようになると思います。

紙生

「ジュース何が良い?」と買い物中、母に聞かれた。とは言え、いつもバックに入った物になる。理由は、ペットボトルは使用後もかさばるとの事だ。家のキッチンの隅では牛乳、ジュースの空いたバックが干され、リサイクルの旅の出発待ちをしている。

多種多様な紙と当たり前の様に暮らし、無くなったら、と考えた事はなかったが、日々の生活で一番無くて困る紙は、トイレットペーパーだと思った。新聞や教科書はデジタル化できるかもしれないが、他の物に代用できない紙の重みを感じた。私は、小学生の時から様々な環境問題について考え、その中でもプラ問題に取り組んできたが、同時に紙の存在が気になっていた。プラ製品は便利だが原料、処理に課題があり紙製に代用できる商品があるだろうと思っていたからだ。最近では紙ストローの商品化やレジ袋を紙袋に変更したお店も増えたが、紙製品が増える資源は足りるのか不安になる。日本では原料の六割が古紙だが、今後プラなどの代用も考えると、今まで以上に量が必要になると思いリサイクルの重要性を改めて感じた。古紙は、品質や特徴で生まれ変わる物が違い、キッチンで干されている牛乳バックが、とても貴重に見える。また、アイスやお菓子の箱がもし無くなると、食品の保護がされない他、見た目が寂しく美しさが伝わらないだろう。様々な古紙が役目を持ち、私達の生活を豊かにしている事を忘れてはならない。

古紙回収を浸透させるには、紙に対する理解と意識が大切だ。しかし、全ての紙類が資源にならず禁忌品が多いので、ペットボトルや缶に比べ分別が簡単でないと思う。皆が、リサイクルに興味をもち正しく分別ができる事、そして楽しく取り組める方法を考えた。個人で回収に出す場合、トイレットペーパーと交換できる業者があるが、その様な場を増やす事や、画用紙やノートなど交換できる品の選択肢が増える子供と一緒に楽しめて良いと思う。回収時、発券した枚数により商品に交換できるシステムにすると目標ができ、不要になった物を資源にするか考え、紙と向き合う意識が高くなるだろう。そして家庭では、子供にリサイクルの大切さを伝えるきっかけになり、幼少期から興味をもち行えば将来的に継続できる方法の一つではないだろうか。また商品を紙製にする事で使用後、資源になる物は回収に出し、再び商品として自分の元に戻る。リサイクルが楽しく、より身近に感じられ資源の持続に繋がると思う。原料である古紙への知識は、紙に対する見方を変える。私の家ではトイレットペーパーの芯を集めているが、資源に囲まれて生活している事を意識すると、宝探しの様に小さな物にも目が向き大切に思う気持ちが強くなる。快適な暮らしに感謝をし、今後もリサイクルに努め、人生ならぬ紙生を応援したい。

私達にできること

私の住んでいる地域では、週に一度資源回収日があり、その日にダンボールや紙バックなどの古紙を収集所に出すことが、私の仕事の一つです。しかし、私の親戚の住む地域では資源回収と焼却ゴミの回収は同じになっているそうです。私は、そのことを聞いてとても悲しくなりました。また、私の住む地域も他人事ではないと思いましたが、そうならないために、地域ごとで集める古紙の量をさらに増やす事が大切だと考えました。

私が考える対策は二つあります。一つ目は、家はもちろんさまざまな場所に、使った紙を集める箱を設置することです。コピー用紙は、ダンボールや紙バックと違い厚みがなく、焼却ゴミとして捨ててしまいがちです。それを防ぐために、実際に私の家でもコピーミスをした紙を置くスペースがあります。そこは、コピー用紙専用になっているため、リサイクルができないレシートや紙コップ、写真などが混ざってしまう心配がありません。また、それらを取り除く手間も省けます。小さな習慣で集められる古紙は、必ず増えると思います。

二つ目は、資源回収日を事前に知らせることです。他と比べ回収日が少なく、忘れてしまったから焼却済みとして出してしまったという人は少なくないでしょう。それに地域全体で取り組むことで、一人ひとりの意識も変わると思います。それに加えて、集めた古紙がどのように変わるのかを説明することも良いと思います。紙バックはトイレットペーパーやティッシュペーパーに、雑誌や雑がみはダンボールや絵本に、そして新聞紙やダンボールは、同じ姿へと戻ります。その他にも教科書やノート、紙袋などとても身近な物に変わっています。このことをもっと多くの人が知れば、紙リサイクルへの意識は高まるに違いありません。地域全体の古紙回収量を増やすためにも、まずは自分達ができることに取り組みたいと思います。

もし、このまま資源回収日がなくなり、古紙の回収量が減ってしまったら、もったいないのではないのでしょうか。一度使ったからと言って捨ててしまふのと、リサイクルしてもう一度誰かに使われるのでは大きな差があります。少し面倒に感じる人もいるでしょう。しかし、資源のため、紙のため、私達のためを考えれば簡単なことです。誰かが集めてくれた古紙を自分達も集め、資源回収日に出すことは、今までに集めてきてくれた人への感謝の表し方の一つだと思っています。

紙をリサイクルするのは大切だと、誰もが知っています。しかし、実際に行動できている人はまだ少ないと思います。一人ひとりの少しの心がけで大きく変わるはずです。私達が古紙を集めるだけでリサイクルにつながるという環境、今まで集めてきてくれた人への感謝を忘れず、まずは私が率先して紙リサイクルに協力していきたいです。

日常

「ドサッ。」

聞き慣れているようで、聞きなれていない音。一役の終わりのようで、初まりの音。

そうそれは、また手元に帰ってくるまでの、「いつてきます。」の挨拶でもある。私たちはその挨拶に回答しているだろうか？

朝、ガチャンという音と共に届く新聞、「ゴロゴロ」と音を立てて使われるトイレトペーパー、パラパラと音を立ててめくれる絵本、そうそれは自然と耳に入ってくる音、何気なく聞き過ごす音、あなたは知っていますか？その音が訴えるものを。その音が「ただいま。」

そう告げていることを。でも

「紙は気持ちを持っていて、誰にでもいつてきますとただいまをいつているんだ」

そう人に伝えても

「何を言っているんだ。紙は紙だ、何も喋りはしないよ。」

そう言葉を返してくるだろう。何故だろうボーボーと音がする。何かが燃える音がする。そうたくさんのいつてきますが燃える音だ。

「紙は紙だ何も喋らないよ。」

そう思っているあなたは知っていますか？彼らは音で私たちに伝えようとしていることを。あなたは知っていますか？彼らは私たちを支えるために繰り返し働いていることを。ではどのようにしたら紙の挨拶に回答することができるのか。それは実に簡単だ。それは、

「おかえり。」

と紙に言葉をかけること。

「いつてらっしゃい。」

そう気持ちを込めて紙を送り出すことだ。その2つが私たちのできる恩返し、その2つであなたの日常いや世界は大きく変わる。

朝、

「ただいま。」

の挨拶と共に届く新聞

「ただいま。」

と挨拶をして使われていくトイレトペーパー。

「ただいま。」

と挨拶をしてめくれる絵本。

その挨拶に今日も私は応え続けたい。

「おかえり。」

大切なしげん正しくえらんでリサイクル



ポスター
小学生部門
佳作

横浜市立瀬ヶ崎小学校 4年 渡部 花菜
生まれかわる旅へ



ポスター
小学生部門
佳作

アトリエ IT 6年 千賀 煌大
紙リサイクル しよう



ポスター
中学生部門
佳作

岩国市立周東中学校 1年 山下 匠翔
古紙はごみ？ じゃなくて、貴重な資源だ!!



ポスター
中学生部門
佳作

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 1年 鮫島 まみ
資源には限りがあるからリサイクル



リサイクルは続くよどこまでも



全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト

毎年度、全国の小中学生に“紙リサイクル”に関する作文、ポスター作品の募集を行い、応募作品の中から優秀作品を選定し、受賞者を表彰しています。

第12回目となった2020年度は
2,899点の応募がありました



【コンテストの内容】

募集対象 全国の小学生・中学生ならどなたでも

テーマ 紙リサイクルに関する活動やアイデア

募集部門 作文（小学生部門、中学生部門）
ポスター（小学生部門、中学生部門）

賞と賞品

文部科学大臣賞 作文部門1点、ポスター部門1点
（賞状・楯・副賞図書カード5万円）

金賞 各部門1点（賞状・楯・副賞図書カード3万円）

特別金賞 3点（賞状・楯・副賞図書カード3万円）

銀賞 各部門1点（賞状・楯・副賞図書カード1万円）

佳作 12点（賞状・副賞図書カード2千円）

学校特別賞 2校以内（賞状・副賞ギフトカード5万円）

学校奨励賞 2校（賞状・副賞ギフトカード2万円）

参加賞（応募者全員に記念品）

2020年度 応募数

	小学生	中学生	合計
作文部門	348	779	1,127
ポスター部門	761	1,011	1,772
合計	1,109	1,790	2,899

	小学校	中学校	合計
応募学校数	59	149	208

教室、塾など	15		
個人応募数	90	総計	313

スケジュール 例年5～6月 募集開始、秋頃締切

* 来年度の募集開始・応募締切は、新型コロナウイルスの状況より判断し、当センターホームページ等にてお知らせします。



学校特別賞 小学校部門

東京都

荒川区立第三日暮里小学校



【沿革】

大正7(1918)年4月 開校

児童数 423 名

学級数 14 学級

末永 寿宣 校長先生からのコメント

この度は全国小中学生紙リサイクルコンテスト学校特別賞をいただきありがとうございます。本校は、長年地元リサイクル企業様と連携し、教育課程の中にボランティア委員会を設定し、「もったいない運動」を展開してまいりました。「ものづくり荒川」の伝統を受け継ぎ、物を大切にする気持ちを醸成するとともに、「読書を楽しむまち・あらかわ」の学校図書館研究指定校として読書活動を推進し、紙の本を大切にする子どもを育てています。この受賞が今後も子どもたちの「エコにやさしい」取り組みの励みになることを期待しています。

継続応募年数 8 年 (平均作品数 92 点)



学校特別賞 中学校部門

宮崎県

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校



【沿革】

平成 19(2007)年4月 開校

生徒数 240 名

学級数 6 学級

川越 淳一 校長先生からのコメント

持続可能な循環型社会の実現に向けて意識を高めることを目的に、夏季休業中の選択課題の1つとして、10年間にわたり継続して取り組んできました。生徒の前向きな取組がこのような形で評価され、大変光栄に思います。この受賞を機に、生徒がますます身のまわりの環境に山積する問題について、グローバルな視点で考え、自分ごととして行動できるようになることを期待しています。

継続応募年数 10 年 (平均作品数 69 点)



学校奨励賞 小学校部門

東京都

荒川区立第三日暮里小学校

2020年度 応募作品数 137点 (作文70点、ポスター67点)

学校紹介

大正7年4月に開校した伝統校です。開学当時、着任した中村雨紅先生が「夕焼け小焼け」を作詞し発表されました。本校の第二校歌として今でも歌い継がれており、地元の方から「ゆうやけこやけの学校」として親しまれています。地域の繊維街やリサイクル企業と連携した委員会やクラブ活動も盛んです。学校図書館研究校として長年読書活動を推進し、今年度より辞書引き学習法を取り入れ、全校で語彙力向上に取り組んでいます。



【沿革】

大正7(1918)年4月 開校

児童数 423名

学級数 14学級



学校奨励賞 中学校部門

富山県

富山市立堀川中学校

2020年度 応募作品数 292点 (ポスター292点)

学校紹介

富山市街地の中央に位置し、日本海側で最も生徒数の多い中学校です。長年地域と協力した清掃活動である「街も心もピカチュウ大作戦in堀川」を行い、近年では下足ロッカー内の靴を揃える運動など、環境美化に関心を向けた取り組みを生徒会主催で行っています。

当たり前のことを当たり前にさらっとやってのける「堀川プライド」を本気で実行しようと、生徒は日々の学習や活動に意欲的に取り組んでいます。



【沿革】

昭和22(1947)年4月 開校

生徒数 1,024名

学級数 29学級

公益財団法人古紙再生促進センターの活動

当センターは、小中学生を対象にした紙リサイクルに関する以下の取組みを行っています。

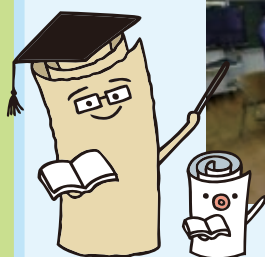
紙リサイクル促進大使
「カミリィ」ちゃんと
「カミリイママ」



紙リサイクル出前授業



講義風景



〇×クイズ



手すきはがきづくり

紙リサイクルの大切さについて理解を深めてもらうことを目的に、小学4年生を主な対象として紙リサイクルの出前授業を行っています。
これまでに300校近い学校で実施いたしました。コロナ禍の現在は、主にオンラインにて実施しています。

出前授業の内容

① 講義（45分）

ZOOMを利用して、学校と当センターの東京事務所をつなぎ、紙リサイクルに関するクイズに挑戦したり、紙の原料のパルプを観察したりします。

② 手すきはがきづくり（45分）

児童全員に古紙からハガキを作る体験をしてもらい、紙リサイクルのプロセスについて学びます。

*iPad や手すきはがきづくりに必要な備品は貸し出しします

キッズコーナー

当センターホームページ内にある「キッズコーナー」には、小中学生が楽しみながら紙リサイクルについて学べるコンテンツをいくつか用意しています。学校の授業や家庭学習にて、是非ご活用ください。

アニメーション動画 「日本の紙リサイクル」



小学4年生の女の子が紙の妖精？と出会い、紙リサイクルの不思議な体験をするストーリーです（約4分）。

紙リサイクル〇×クイズ

紙リサイクルに関するクイズに挑戦し、「紙リサイクル理解度」を判定します。初級編、上級編があります。



公式ソング

『かみの「か」を「ご」にかえないで!』



紙をごみにしないでリサイクルしてほしいとの思いを込めた当センターの公式ソングを聴くことができます。

詳しくはこちらをご覧ください。

URL <http://www.prpc.or.jp/kids/>



全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2020

入賞者一覧・受賞作品 作品集

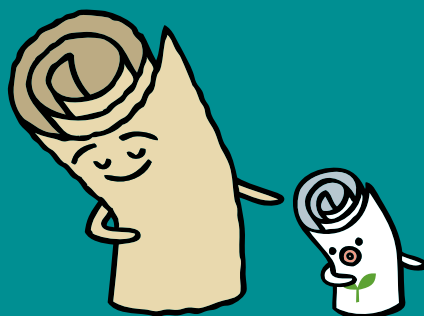
企画・発行

公益財団法人古紙再生促進センター

<http://www.prpc.or.jp/>

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

TEL: 03-3537-6822 FAX: 03-3537-6823



本作品集はこちらからご覧いただけます。

http://www.prpc.or.jp/activities/public_relations/award/

